



**◆北部地域包括支援センターの移転について**

**問** 新広丘支所の整備に併せて移転の検討を。(永井)

**答** 本年4月に、広丘地区、吉田地区の区長会の代表者をはじめ、施設に関する方々8名で「北部地域拠点施設整備検討委員会」を設け、地域ニーズや課題を抽出して、施設に期待するサービス等について検討し、建築構想をまとめる。北部地域包括支援センター



北部地域包括支援センター

に対する相談及び訪問を行い、医療機関と調整をする「認知症地域支援員」も配置する。認知症力フエは、現在市内に2箇所あるが、利用される本人や家族と支援チームの連携が図れる体制を整え、本年度増設を促す補助制度として、開設補助5万円、運営補助2万円を2年間補助する。



ふれあいセンター広丘の機械室(ペレットボイラーとサイロ)

**◆ふれあいセンター広丘について**

**問** 施設の利用者状況とペレットボイラーの運転に要する燃料費は。(永井)

**答** 4月17日の開所から5月末までの利用者数は2千723人で、その内、入浴施設利用者数は2千18人、年齢別では60歳以上の利用者が68・3%、利用者の多い地区は、広丘、高出、吉田地区の順である。市内、公共施設初のペレットボイラーは、施設の給湯及び床暖房に利用し、災害時も使

一の機能移転についても、この委員会で、施設を利用するユーザーの視点や行政サービス面から検討している。この構想を基に、具体化した施設構成を本年度中に議会と協議し、施設建築物整備に関する基本計画をまとめていく。



**◆社会全体で障がい者支援を**

**問** 障がいのある方の自立や就労を支えるために行政は障がい者就労施設から優先的に調達する必要があるが、本市の対応は。(山口)

**答** 昨年度は物品の調達や作業などで68万8千円余だったが、今年度は130万円を目標額としている。



障がい者就労施設でのペレットの搬入作業の様子

用可能なバルク式のLPガス併用式を設置する。現時点の使用燃料費の割合は、ペレットが65%（31万1千320円）、LPガスが34.3%（16万2千661円）で、更に試行運転を重ね燃焼効率を高めていく。



市内中学校

**◆地域連携教育の内容は**

**問** 市ではこれまでも「教育再生」をスローガンに掲げ各種の事業に取り組んできたが、新たに地域連携教育に取り組みようとしている。その必要性と事業内容は。(平間)

**答** 現在の子どもたちを取り巻く環境を見るとき、学校と保護者、また地域住民が連携を図り、ともに知恵を出し合い学校運営に反映することで、子どもたちの豊かな成長を支えていくことが必要。事業内容は、「ミニユニティ・スクール、キャリア教育、小中一貫・連携教育などにつ

**これからの教育のあり方を問う**

